

抽選で鹿角が当たる!

平成22年

10月3日(日曜日)

10月10日(日曜日)

午前10時~11時30分(雨天中止)
午後1時~2時30分

鹿の角切り

入場無料

■毎年生え替る鹿の角

鹿の角は雄鹿だけに生えて、雌鹿にはない。角は毎年生えかわり、3月、4月頃に抜け落ちてすぐに生え始める。その頃の角は柔らかく、血も通い、産毛が生えていて「袋角」と呼ばれている。

やがて体の冬毛が夏毛に換わると、その茶褐色の背には白い斑点(鹿の子斑)が浮かび出てくる。角は数ヶ月のうちに数十センチも伸びて、9月には硬くなり、その先端は先鋭化して皮が剥けてくる。いよいよ発情期の到来である。

■発情した雄鹿は危ない!!

発情した雄鹿は興奮してホイーヨーと鳴き叫ぶ。秋の夕べに山間から聞こえてくるその声は物悲しい響きがあり、二声から三声、高く尾を引いて連続する。この時期の雄鹿は気が荒くなり、特に人慣れした鹿は人に危害を加えることがある。その危険を防ぐために角切場に收容して角を切り落とすのである。

金華山においては昭和38年11月、社務所前で行なったのが始まりで、本年は48年目になる。

■角切り行事

8月末より雄鹿を收容している囲いの扉を開くと、数十頭の雄鹿が角を林立させて、どっとばかりに角切場に駆け込んでくる。観客の喚声の中、印半纏、地下足袋、鉢巻姿の勢子たちはそれとばかりに赤い旗の付いた竹棒を振って鹿の群れを追い立てる。一方「十字投げ縄」



を手に待ちかまえた勢子は追われて走る鹿の角めがけて縄を投げかける。

うまく縄がかかった鹿は勢子たちに捕り押さえられ、水を飲ませて落ち着かせてから、鳥帽子、直垂姿の神官が鋸で角を切り落とすのである。角が無くなり、頭の軽くなった雄鹿は開放されて、久しぶりに雌のいる山野へと駆け戻っていく。

■角の分譲

切り落した角は希望者に対し分譲しております。当日、或いは電話、文書で社務所に御申し込み下さい。

■鹿の分譲

希望者は石巻市牡鹿総合支所金華山地域保護活用協議会事務局まで御連絡下さい。電話0225(45)2114

■場所

金華山鹿山公園

鹿角切り場

宮城県石巻市鮎川浜

電話 0225(45)2301

金華山鹿角切り行事委員会・金華山黄金山神社